

1、不妊症

不妊症の患者さんの実例です。

〔症例〕 31 歳、女。挙児希望。結婚して 6 年になるが、妊娠したことがない、と言います。子供が欲しいとの希望で、当院を X 年 5 月 2 日初診となりました。2 年前産婦人科受診して検査をし、卵管は通っており、婦人科の治療、人工受精などをして全く妊娠しないということです。腹部の診察〔腹診〕では、下腹部はやや堅く圧痛があります。これは、下腹部の血行が良くないお血の状態と考えられました。そこでお血の治療に用いる桂枝茯苓丸を服用していただいたところ、2 か月後に妊娠し、翌年、3200 グラムの男児を出産しました。

不妊症とは生殖可能な年齢において、結婚後 1 年以上経過しても子供ができない人を言います。漢方的に女性の不妊症の原因としては、①冷え症、②お血(おけつ)体質、③胃腸虚弱、④実証で肥満型のタイプなどがあります。①冷え症は不妊症の重要な原因で、当帰芍薬散という生薬で、血を温めると妊娠しやすい母体になります。当帰芍薬散や附子などを用います。②お血体質の人は、「血」の病理的産物であるお血が身体に溜まっているので妊娠しにくい状態になっています。お血を治療する駆お血薬の桃仁や牡丹皮などでお血を除き、妊娠しやすい母体にするのです。薬としては、桂枝茯苓丸、当帰芍薬散などがあります。③胃腸虚弱の人は、妊娠を維持する力が低下しており、胃腸を丈夫にして妊娠に耐えられる母体にします。安中散、六君子湯などを用います。④実証で肥満型の人は、身体に余分なものが付いていて妊娠を妨害していると考えます。瀉剤という身体から余分なものを排出する漢方薬で治療します。大黄や枳実などの生薬が用いられ、薬としては大柴胡湯などを用います。母体の弱点が改善されたら不妊症の第一選択薬である、当帰芍薬散を用います。

表 不妊症の漢方治療

体力がある場合（実証）

- ・桂枝茯苓丸・腹力充実してお血のある時に用います。

体力がない場合（虚証）

- ・当归芍薬散料・冷え症で眩暈や下腹部に圧痛などのある時に用います。
 - ・当归建中湯・胃腸が弱く、月経痛などの強い場合に用います。
 - ・六君子湯・脾胃の虚証の時に用います。
-